

「多弱」野党 進まぬ共闘

参院選 複数区でしのぎ 1人区擁立遅れ

参院選1人区
立憲・国民の擁立状況
24日現在



- 野党系の現職
- 立憲民主党が新顔公認
- 国民民主党が新顔公認
- 無所属新顔で野党統一候補が具体化
- 未定

約6年となる安倍政権。自民1強が続く要因の一つは「多弱」野党だ。最大野党の立憲民主党は無所属の会（無会）の一部の会派合流を決めたものの「単独主義」をとり、旧民進勢力の結集は否定する。来年の参院選を前に、野党は共闘関係よりもきしみが目立つ。

ともに新顔 京都で立憲 VS. 国民

「幹事長のおひざ元。必ず勝たなければならぬ」。立憲の枝野幸男代表は16日、福山哲郎幹事長の地元・京都市で、参院選京都選挙区（改選数2）に新顔（40）の擁立を発表した。京都の改選現職は自民、共産。国民民主党は前原誠司元外相の元秘書の新顔（33）を10月に公認済みだ。しかし枝野氏は「他党の動向は関係ない」と言い切った。

前原氏は京都での議席奪取を目指し候補一本化を強く求めてきた。8月の国民府連結成大会では、来賓の福山氏を前に民主党で共に

行動してきた経緯を挙げ「選挙戦を勝ち抜くために、私と福山さんで野党結集を図りたい」と秋波を送った。連合京都も一本化を呼びかけた。

溝は埋まらず、前原、福山両氏の「代理戦争」の様相に。前原氏は「福山さんと話しても『うちは出まじ』の一点張りだった」と周囲にこぼす。

立憲と国民は京都など改選数2以上の「複数区」でしのぎを削る一方、参院選全体の勝敗を左右する全国32の1人区での擁立が遅れている。現在、新顔の公認は立憲2人、国民3人。野党共闘が新顔で具体化しているのは4選挙区だけだ。逆に目立つのは、立憲による複数区での議員の取り

込みだ。枝野氏は「複数区は立憲が1議席をとる」と野党系の改選組に「脅し」をかけた。福岡（改選数3）の野田国義氏は立憲入党を固め、千葉（同）の長浜博行元環境相は国民から無所属に転じた。

立憲幹部は「国民は来年の参院選までの政党。今後起こるのは弱肉強食だ」と解説する。まずは参院選で国民を「解体」し、政権との対決はその次の衆院選一

野党では「立憲の2段階戦略」がささやかれる。民進党で代表を務めた岡田克也氏は「参院選を無視して長い目でやれば良いという発想は通らない。受け皿を作らないと、国民の野党全体に対する期待はしぼんでしまう」と警告する。

動く小沢氏 かわした枝野氏

野党は細分化され、巨大与党と力の差は大きい。「大きな塊」を作ろうと策動したのが、自由党の小沢

一郎代表だ。7月31日夜、社民党の又市征治党首を交えて枝野氏と向き合った。関係者によると、小沢氏

はそそまれて村野日と月1回の会食を重ね、立憲、自由、社民3党による統一党派構想を打診。枝野氏も前向きな考えを伝えていたという。会合の狙いは、意向の確認だった。

だが枝野氏は「自力で整わなかったら、お願いしませぬ」。提案を一蹴した。

この一言で小沢氏は枝野氏といった距離を置き、国民との統一党派結成にかけを切った。野党党首合合があった10月16日夕、国民の玉木雄一郎代表と国会内でひそかに会談。複数の関係者によると、両氏はまず「非共産、非立憲」で統一党派をつくり、その後の野党再編につなげていく考えで一度は一致した。

ところが、小沢氏への拒否反応が国民内に強く、玉木氏は統一党派を断念した。

小沢氏は前大阪市長の橋下徹氏にも目を向けた。11月7日、橋下氏と前原氏の定期的な会食に参加。だが、橋下氏の政界復帰の意思は確認できなかった。

「数の力」を誰よりも重視してきた小沢氏は周囲に現状を嘆く。「どの仕掛け花火もダメだ。しめっちゃって。火がつかねえ」

（山岸一生、河合達郎、安倍龍太郎）

野党共闘 遠い統一候補

参院選 改選数1の滋賀

来夏の参院選で与野党の攻防が目される全国32の「改選数1人区」。野党は候補者を一本化して自公政権に対抗する方針だが、個々の選挙区事情を見ると「筋縄ではいきそうにない。小異を捨てて大同団結できるのか。滋賀を例に野党共闘の「理想と現実」を追った。

参院滋賀選挙区（改選数1）に「野党統一候補」として誰を立てるか。19日夜、大津市内に国民民主党、立憲民主党、共産党、社民党の組織幹部が集まった。国民は前知事の嘉田由紀子氏（68）、立憲は前衆院議員の田島一成氏（56）、共産は県常任委員の佐藤耕平氏（36）の名を挙げた。この日も共闘方針は改めて確認したが、一本化は難航している。話は昨年10月の衆院選にさかのぼる。選挙を控え、衆院副議長も務めた民進党

国民 知名度高い嘉田氏に期待感

立憲 衆院選で推薦拒否され不信

（当時）の川端達夫氏が引退を表明。後継となった嘉田氏は立候補表明の記者会見で、「比例（投票先）は希望（の党）と言わせていた」と発言した。最終的にはどの党からも推薦を受けずに無所属で戦ったものの、民進系の多くが合流した希望の党との近さをアピールした格好になった。複雑な思いを抱いたのは、希望合流を拒否された民進出身議員らが結成した立憲だ。立憲関係者による

と、昨春秋、枝野幸男代表が「うちから出て欲しい」と嘉田氏を説得。選挙終盤にも立憲側が「推薦で形勢をひっくり返せる」と持ちかけたが嘉田氏は断った。しこりは今も残る。枝野氏は21日の記者会見で嘉田氏について「残念ながら信頼することはできない」と強調。「みんな（野党4党）が気持ちよくまとまることは困難」とも述べ、嘉田氏での一本化に否定的な見解を示した。一方の国民も黙っていない。県連関係者の一人は「田島氏では自民に絶対に勝てない」と周囲に語り、田さんが「勝てる候補」だ

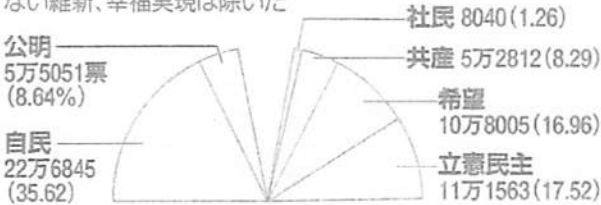
と分かる」と知名度のある嘉田氏への期待感を強調。統一候補が立候補の前提という嘉田氏は20日、記者団に「県民にとって最善の判断をしよう」と、（野党各党に）お任せする」と述べた。計で約28万1896票。一方で立憲、希望、共産、社民の得票を合わせれば28万420票と拮抗する。滋賀1区で出馬した嘉田氏は自民現職に約5千票差で敗れたが、同じ選挙区で立候補した社民新顔は約1万3千票を得票した。

来夏の参院選で、自民は7月に現職の二之湯武史氏（41）の公認を発表。公明も推薦する。自民の県連関係者は「野党が一枚岩になればとは思えないが、選挙前に野党共闘が盛り上がり、戦いにくい」と話す。ただ全国で見ても、特に立憲と国民の1人区での擁立が遅れている。野党共闘で新顔が具体化しているのは4選挙区だけだ。社民の又市征治党首は13日の会見でこうばやいた。「確執がいろいろあって、各県レベルでの協議がうまくいっていない状況がある」（山中由隆、真田慎）

来年夏の参院選に向けた滋賀の構図



昨年衆院選における滋賀県内の比例区各党得票 ()内は全体に占める割合。今回の野党共闘の枠組みに入らない維新、幸福実現は除いた



比例票は与野党拮抗